

## 南アルプス 野呂川 シレイ沢

2014年7月12日(土)~13日(日)

メンバー：L池田T(記)、ヤマメ、犬山

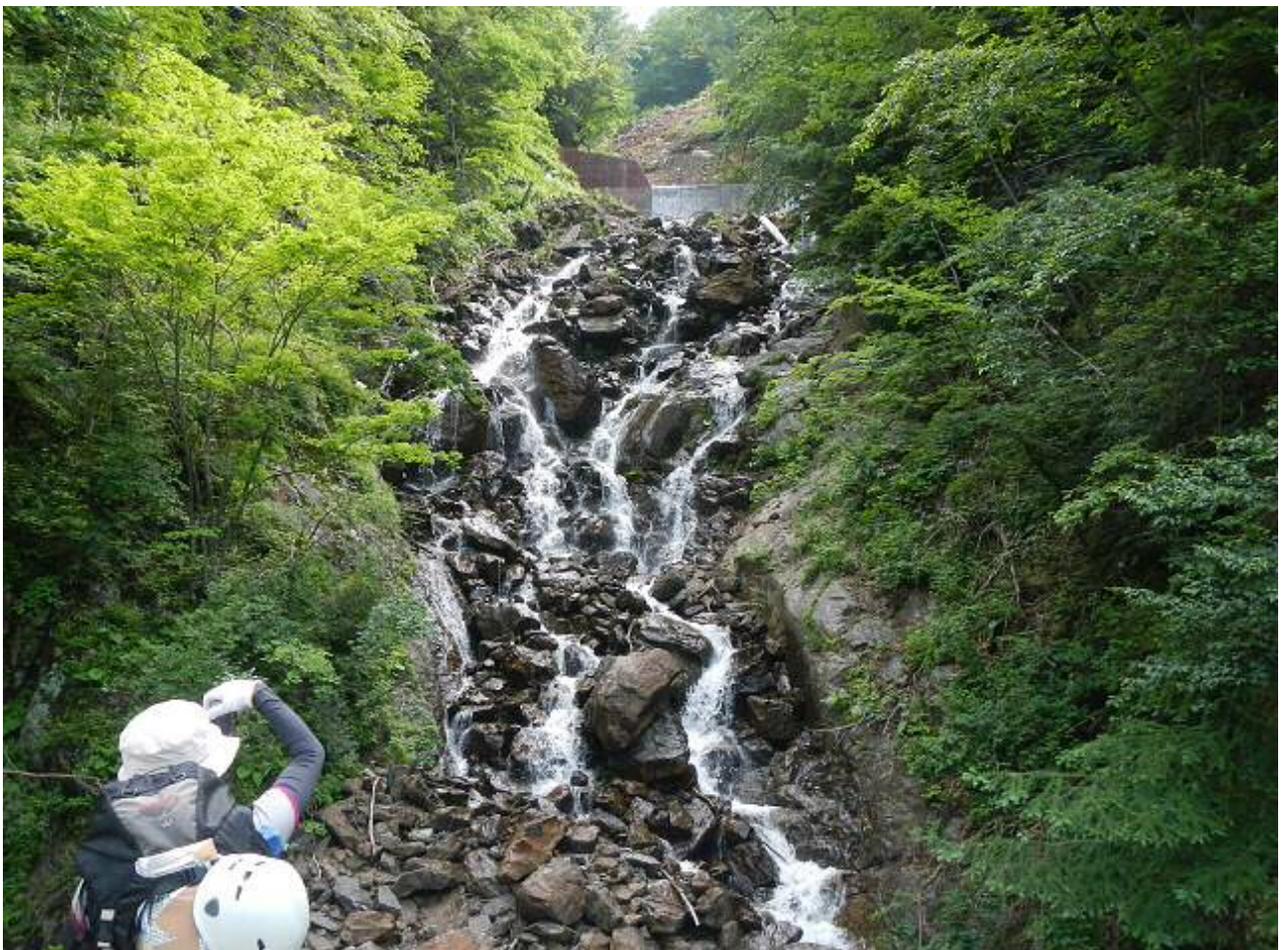
---

シレイ沢は残念ながら非常に荒れていた。3年前の台風でやられたらしい。私は今回が初めてだったので以前の姿は知る由も無いが、あの大量の倒木が沢から無くなる日が来ることが想像できない。幕営地が非常に快適だったことと、2日目の小滝登りは楽しめて良かった。

7/12(土) 晴れのち曇り

当初は芦安から入る予定だったが4日前に夜叉神峠と広河原の間で土砂崩れが発生して林道が通行止めになったため、奈良田からの入山に変更した。9時に出発するバスに乗るつもりだったが、臨時バスが出たので8時前に乗車できた。登山者が多いためピストン輸送している様子だった。予定より1時間以上早く乗れたのは良かったが、広河原までの約40分間、カーブが多い路線をずっと立ちっぱなしだった・・・

広河原で一息ついてから林道を歩きはじめる。30分ほどで白井(シレイ) 沢橋に着いた。



橋から見上げたシレイ沢。すごく急である。



後に見えるのが白井沢橋。

最初の5m滝はガレキに埋まってしまったのか良く分からなかった。どんどん登っていくと沢は岩と倒木で完全に埋まっていた。河床が全く見えない状況がずっと続いた。



こんな状況がずっと続いた

どこまで登っても倒木帯は断続的に出てくる。災害現場の現地調査に来ている気分になった。



このあたりは少し落ち着く。奥の滝は左岸を巻いた

上の写真の奥の滝は左岸を巻いたが、早めにトラバースしたら滝の途中に出てしまい、戻ってさらに登ったりして少々手間取った。

かなり上まで高巻いて、巨大な花崗岩のスラブの下あたりで沢に降りた。そして下の写真の大滝(25m)を巻くために沢を横切り、右岸の巻き道を辿った。



シレイ沢の最大の滝。ここは倒木が無くて良かった。

大滝のほぼ落ち口あたりで沢に降りた。沢の傾斜は若干緩むが、再び倒木の嵐となる。雪渓が残っている所があり、その上に倒木が折り重なっている。今年の春先に大規模な雪崩が発生したのだろうか。



雪溪の上に折り重なる倒木。シュルンドが口を開けている（右下）。



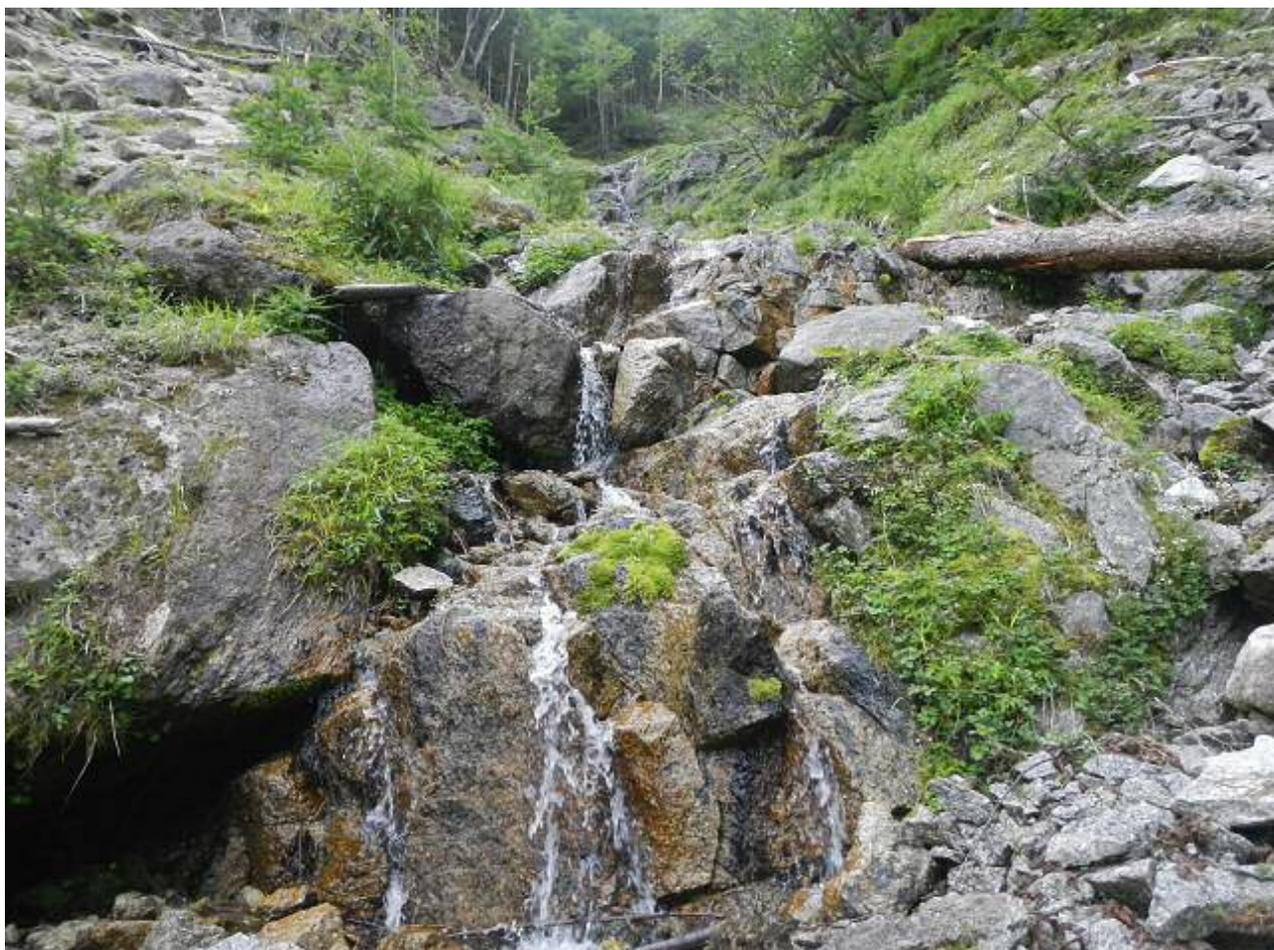
二俣の後の15m滝。右岸を巻いた。

標高2220mあたりで左岸に幕営適地を発見。沢から少し高い所にあり、4～5人用テントが張れそうな平らな砂地があった。空が曇っていたため満天の星空は見る事が出来なかったが、寛ぐことができた。

<タイム> 奈良田7:40～バス～広河原8:20～8:50－シレイ沢橋9:20－入溪9:45－白い大滝下14:45－幕営地16:05

7/13(日) 曇りのち雨

遡行2日目は水流少なく、濡れたのはヒザ下のみ。高巻きも無かった。



快適に登れる小滝が続く

標高2400mあたりで水流は途絶え、涸れた谷を登っていく。風化した花崗岩のザレ場が滑りやすい。やがて樹林帯になり、最後は5分程度のハイマツこぎで主稜線に出た。観音ヶ岳と薬師ヶ岳の間の標高2770mあたりであった。



主稜線に出たホッと一息。バックは薬師ヶ岳

雲行きが怪しい中、広河原に戻るべく、主稜線を北上する。



観音ヶ岳の山頂でくつろぐ人々

赤抜沢ノ頭の手前で雨が本降りになってきた。視界は悪く、地藏ヶ岳のオベリスクは全く見えない。  
高嶺を越え、白鳳峠から広河原に向かって降りた。  
標高2200mあたりは全てが苔に覆われて、深い森の雰囲気良かった。



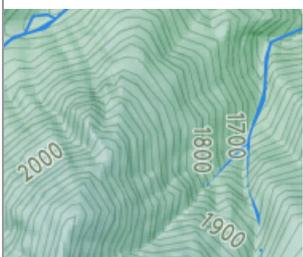
雨に濡れて緑がしっとり

広河原に着いたら10人乗りの乗り合いタクシーがバックドアを開けて待っていた。バスと同じ料金で奈良田まで乗せてくれるという。次のバスまで2時間近くあるので助かった。  
「奈良田の里温泉」で汗を流して帰路に着いた。

<タイム> 出発6:00－主稜線8:35－観音ヶ岳9:05－赤抜沢ノ頭10:10－高嶺10:50－白鳳峠11:45－林道14:02－広河原14:15～14:35－奈良田15:10

以上

【重要】ルートラボは2020年3月末にサービスを終了します。  
詳細は[こちら](#)をご覧ください。



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN